

# 難治性疼痛の統合的理解： エピジェネティクス機構および miRNA調節機構の異状応答

星薬科大学大学院薬学研究科薬理学 教授

成田 年 先生

成田 年先生は精神神経疾患に関する病態薬理化学研究の第一線でご活躍の若手薬理学者です。慢性疼痛発現および薬物依存形成において、神経・グリア細胞の分化（幹細胞の分化）ならびにそれらの増殖が関与することなど、これまでに慢性疼痛の病態に関する新たな視点からの知見を明らかにされてきました。

昨年までに「薬物依存および慢性疼痛におけるグリア細胞の役割」、「慢性疼痛および薬物依存と細胞分化」、「痛みストレスと脳高次機能の歪み」、「細胞分化におけるオピオイド（麻薬性鎮痛薬）受容体の多様性」、「慢性疾患に伴うシナプス可塑性とエピジェネティックなクロマチンリモデリング」などについてご講義いただきましたが、本年度は、最新の研究成果をもとに、転写調節、エピジェネティクス機構、miRNA調節など、多角的な方面からのアプローチを用いた新しいコンセプトでの痛みの統合的理解の重要性について紹介していただきます。このような統合的理解は、神経障害性疼痛の本質を理解するための大きな手がかりを見つけ出すきっかけとなるだけでなく、根本的・早期治療方針を提示していく上で非常に重要な意味を持つと考えられます。また、情緒障害とmicroRNAにつ

日時：2012年1月17日（火）午後5時～6時半

場所：鹿田キャンパス 管理研究棟 6階  
第7カンファレンスルーム

神経情報学 浅沼幹人 招聘